

活用事例	3 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】高台にある寺院への二次避難		
学校名	周防大島町立三蒲小学校		
日時	平成25年4月23日(火) 10:10~10:40		
場所	運動場及びお寺	参加者	児童・教職員

## 1 訓練のねらい

授業中に地震が発生し、直後に津波警報が発令された場合に、自分の身を守るための基本行動ができるかどうか、また、避難経路の安全を確認しながら二次避難場所まで整然と避難ができるかどうかを検証する。

## 2 訓練の概要

### (1) 事前指導

ア 防災教育テキスト等を活用して、地震・津波発生メカニズムや基本的な対応等について、各学年に応じた学習をする。

イ 地震等、突発的な自然災害が発生した場合は、放送や先生の指示に従い、落ち着いて静かに行動すること。

ウ 地震が発生した場合は、身の安全を確保するために机等丈夫な物に潜り、机の対角の足をしっかり持ち、机が倒れないようにすること。

エ 強い揺れが収まって運動場に避難する際、「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」の約束を守ること。

### (2) 訓練の実施

#### ア 訓練開始の放送

「今から、地震が起きた時の避難訓練を行います。」

#### イ 地震発生の緊急放送

- ・非常ベル鳴動：10秒間ベル、5秒間おいて再度5秒間ベル
- ・児童に机の下に潜り、机の脚をしっかりと握るように指示する。



児童は教職員の指示で机の下に潜る

※ 地震の揺れを感じたら、身の安全を確保するために、机等丈夫な物の下に潜って揺れが収まるのを待つこと。近くに机等がない場合は「上から物が落ちてこない」「横から物が倒れてこない・移動してこない」場所を瞬時に見つけ、そこで姿勢を低くして揺れが収まるのを待つこと。

～県教委「防災訓練事例集」より～

#### ウ 津波警報発令による緊急避難の放送

「訓練、訓練。今、三蒲の海岸に津波警報がでました。児童の皆さんは先生の指示に従って外に避難してください。避難開始！」



- ・担任等は児童を先導し、外へ避難開始
- ・教職員の指示に従い「お・は・し・も」を守りながら運動場へ移動する。

エ 一次避難場所(運動場)へ避難後、点呼を取る。



#### 運動場に避難

- ・教頭は校舎内の確認を取りながら、最後に校舎外に出る。
- ・教頭等は、ラジオや携帯サイトなどで情報収集しながら避難する。
- ・児童を整列させ、点呼を取り、負傷者の有無を確認した上で、校長に報告する。

オ 二次避難場所(寺院)へ避難開始

- ・教職員の指示に従い、周りの状況に注意しながら二次避難場所へ移動する。
- ※ 最後尾は、教頭がつく。
- ※ 交通安全に十分留意する。



#### 二次避難場所(近くの寺院)へ移動

カ 寺院(高台)へ避難後、校長から避難訓練の評価と、緊急時に対する心構えについて講評

- ・二次避難場所に避難後、児童を整列させ点呼を取り、負傷者の有無を確認した上で校長に報告する。
- ・二次避難場所に避難が完了するまでの時間を測定し、津波の予想到達時間と照らし合わせ、二次避難場所が適切かどうか確認する。



#### 指導講評

- ・地震はいつどこで発生するか予測が難しい。また、地震発生時は恐怖で混乱したり、体が動かなくなったりすることもあるため、訓練を繰り返し行う必要がある。
- ・二次避難場所等に避難する際、周りに小さい子や高齢者がいたら、自分の身の安全を確保した上で、手を引くなど協力して避難すること。  
～県教委「防災訓練事例集」より～

### 3 訓練の成果と課題

#### 【成果】

- ◇ 津波発生時の避難場所として、高台にある寺院の協力を得て訓練を行うことができありがたい。
- ◇ 児童は、担任の誘導によって速やかに二次避難場所まで移動できた。
- ◇ 一次避難・二次避難場所それぞれにおいて人員確認・報告を確実にし、教職員の連携が重要であることを再認識できた。
- ◇ 少人数ではあるが、全校が一斉に避難するので、怪我防止のため、小走りより歩いて避難したのはよかった。(緊急性にもよる)

#### 【課題】

- ◆ 専門家による出前講座等を活用し、児童の防災意識をさらに高めていく必要がある。また、教職員も外部講師による研修の機会をもち、危機管理意識を高めていきたい。
- ◆ 保・小の連携の意味でも、隣接の保育所と合同で避難訓練をすると、実際に即した訓練が期待できる。